



シャングリラ足助 2009

平成21年3月14日(土)
午後1時~4時30分

足助交流館

プログラム

- 13:00 オープニング
- 13:25 地域づくりの足跡
- 14:00 地域づくり講演会
- 15:35 地域づくり懇談会

主催 / 足助地域会議・足助地区コミュニティ会議・足助地区区長会・豊田市足助支所

足助地区恒例の地域づくり大会「シャングリラ足助2009」が開催されました。これは共働によるまちづくりの実践発表と地域課題の解決を考える意見交換の場として、旧足助町時代から行われ、13回目を迎えます。シャングリラとは「理想郷」という意味があり、足助地区が地域のよさを生かし住んでよかったまちづくりを目指すものです。会場には約280人の住民が集いました。

1. オープニング

足助の明るい未来へ届け! 力強い太鼓の響き



「シャングリラ足助2009」は、三州足助太鼓と明和太鼓「響」の力強い太鼓の演奏で幕を開けました。子どもたちによる大人に負けないバチさばき、さまざまな年代のメンバーによる息を合わせた演奏に会場からは大きな拍手が贈られました。

豊田市民の誓いを、太鼓メンバーのリードで、参加者と元気いっぱい唱和しました。



2.地域づくりの足跡

足助地区コミュニティ会議活動報告

足助地区コミュニティ会議では、「地域住民の連帯を深め、住みよい地域社会をつくるため、自分たちの地域は自分たちでよくしていこう」と活動をしています。運営委員会や4部会3実行委員会のそれぞれの活動状況を報告しました。次年度からはコミュニティ会議活動費を地区住民のみなさんからの負担金でまかなうこと、スポーツクラブの設立に向けて検討が始まったこと、第1回ふれあいまつりでは各部会の参加や準備から運営までを自分たちで役割分担して開催できたことなどが報告されました。



活動のさらなる飛躍を目指し、何事も協力し合う運営委員の心意気を「香嵐溪音頭」で表現しました

わくわく事業実践発表 椿立地域づくり推進委員会

「椿の里・水車と石仏のある旧道復活事業」



わくわく事業補助団体を代表して椿立地域づくり推進委員会の安藤直樹さんが実践発表を行いました。延べ日数26日、延べ人員271名で行われた水車と石仏のある旧道復活事業。石仏を整備しハイキングコースとすることや水車小屋を建築することで新たな観光スポットの創出を目指しています。次年度には、案内看板の設置や、水車小屋に昔の道具等を展示する予定です。平勝寺や白鳥山の石碑群とあわせて、山里のよさを伝える新たな名所となります。

小さな自治区の団結力により、こうした事業が実を結ぶことが、足助地区の地域づくりをますます活発にすることにつながると期待します。

地域会議委員紹介&主催者あいさつ

足助地域会議の佐久間会長が「今日は新たな課題解決に向けて多くの皆さんからご意見をいただきたいので、よろしくお願ひします」とあいさつ。続いて第2期足助地域会議委員が自己紹介をしました。そして、足助地区コミュニティ会議と足助地区区長会の小野会長が、「地域住民の知恵と力を合わせてがんばりましょう」とあいさつしました。



～主役は住民みんな～

感謝と感動の地域づくり



地域づくりに必要なことは
人の出番を作つてあげること。
過疎化の町でも同じことです。

鹿児島県鹿屋市串良町柳谷町内会長の豊重哲郎さんによる講演が行われました。通称「やねだん」と呼ばれる柳谷集落は、人口300人、65歳以上が4割というどこにでもあるような「過疎高齢化」の集落。10年ほど前に集落の長老たちが豊重さんを町内会長に推薦。以

来、リーダー豊重さんを中心に集落は変わっていく。

「限界集落・過疎・高齢化」をはねのけ続ける「やねだん」の活動を紹介しながら、リーダーの役割、アイデアと工夫、集落の結束の極意を熱く語っていただきました。

子どもたちに協力してもらい 町民の理解を求めた

行政に頼らず自分たち町民の力だけで、町を再生する。話せば簡単なことですが、町民の人すべてがみんな協力的だとは限りません。「草刈り? そんなものやりたくない」そう話す人はどこの地区にだっていらっしゃいます。そういった人たちにいかに参加してもらうかも重要です。やねだんでは、最初に集落の有線放送に目を付けました。5月の母の日には、地元の高校生に協力してもらって、やねだんに住む親へ、離

れて暮らす子どもからの感謝の手紙を読んでもらったんです。心温まるメッセージ、そこには感動があります。感動があれば人は動いてくれます。他にも地元の高校生が東京でイチローを観たいという夢を叶えるために、みんなに協力してもらって芋を作りました。それを売ったお金で東京までイチローを観に行く予定でしたが、東京に行くまでには足りませんでした。しかし、福岡でイチローのプレーを観ることはできました。芋作りもそうですが、高齢となった経験者に自分の力を発揮する場所を提供してあげて、町の活動に参加してもらうことは大切です。

みんなの力で得た財源は すぐに還元することも大事

その他にもオリジナルの焼酎「やねだん」を作って販売したり、飼育に役立つ飼料を開発したりして財源を確保しました。そのお礼にと住民全員にボーナスを支給することもできました。もちろん行政に頼らずに自分たちの力で得た財源です。ただし、財源というものには貯めてはダメですね。これはやねだんでも行いましたが、高齢者の家に緊急用の警報機を付けるなど、すぐに町民に還元してあげないといけません。



町の発展には文化が大切 だからアーティストを迎え入れました

やねだんでは空家になった家を改装して「迎賓館」と名付け、県外からの転入者を全国から募りました。「町に若者を増やそう!」と考えたのです。それも最初に募集したのは「アーティスト」です。町の発展に文化は不可欠だと私は考えています。美術家や陶芸家の方など、今では多くの方が転入してくれましたが、そういった方が町に住んでいてくれることにより、新しい発展があると思います。最初は町民のみんなもアーティストの意味も分かりませんでした。今では町民とも溶け込んでくれています。転入者もアーティストなら

誰でも良いという訳ではありません。町のことを理解し、町民とも手をとりあって生活してくれる人かどうかを見極める必要があります。

ここ足助は豊田市という大きな街とも近いし、非常に可能性は残っていると思います。まず手を挙げて実践してほしいです。やねだんは、今では各地区のリーダーが視察に訪れるほどになりましたが、交通の便は足助よりもっと悪いし、人口も300人ほどです。それに比べればチャンスは非常に多いはず。感動を与えれば人は動きます。過疎高齢化が進んでも、出来ることは必ずあるので共に行政に頼らず地方から町を元気にしていきましょう。



4.地域づくり懇談会

ともに知恵を出し、汗を流して、力を合わせ 自分たちの地域は、自分たちでよくしていこう!

懇談会は、地域会議会長の佐久間章郎さんの司会で進行。豊田お笑い劇団「笑劇派」の寸劇を交え、地域会議提言事業である「通行支障木伐採事業」「あすけ住暮楽夢プラン」の平成20年度の進捗状況を報

告。さらに足助地区で取り組む新たな課題「耕作放棄地の解消」について説明し、会場全体を交えて意見交換を行いました。

●地域会議提言事業 進捗状況報告

通行支障木伐採事業(第1弾提言)

暗かった道路も明るくなり子どもの通学に便利に

足助地区住民に扮して登場した笑劇派の「暗かった道路が明るくなり、子どもたちの通学も安全になってよかった」という話題が…。これは、足助地域会議が平成18年度に提出した「山里あすけからの提言書 やろまいか!足助!」の通行支障木伐採事業のこと。地域のみなさんが力を合わせて、道路沿いなどの通行の支障になる木を伐採することに対し、高所作業車や

交通整理員などの費用を行政が支援するものです。足助支所固有の事業として予算化されています。20年度は9自治区16自治会が実施し、距離にして11km、回数22回、延べ約380人が参加しました。また足助中学校でも「風の街道プロジェクト」として国道420号沿いの竹やぶの伐採など行ってくれています。

あすけ住暮楽夢(スクラム)プラン(第2弾提言)

足助に住み、暮らす人がスクラムを組み楽しく過ごすために

笑劇派が扮する足助地区住民の「子どもの姿をみなくなった」「活気がなくなった」という話題から、「足助に住みたいという問い合わせは60件もある」とのこと。「でも、よく知りもしない余所者が住んだら問題が起こって困る」「そんなことをいってる場合ではない」と。

そこで、平成19年度に提言した「あすけ住暮楽夢プラン」についての説明へ。足助に住み暮らす人がみんなスクラムを組んで楽しく過ごし、夢をみる事ができるまちを目指すために命名されたこのプランは、地元住民と足助に住みたい人がお互いに理解し、地域の活性化につなげる定住者を増やす仕組みです。

20年度は「定住対策連絡会」が発足し、足助・佐切・

冷田・明和・椿立・大蔵・御蔵の7自治区、足助商工会が参加。地域全体での取り組みとするため、自治区単位での意見交換会を実施し、住暮楽夢プランへの理解を広げました。さらに、地域住民と定住希望者との交流会を4回実施しました。地域のイベントに参加したり、地域住民と定住希望者が意見を交わしたり、物件を案内したりする内容でした。

定住希望として登録しているのは現在68組です。1組でも多く、地域を理解し住民と仲良く暮らしてもらいたいと思います。またこれにより過疎化を食い止め、集落の活性化につなげるのが目的です。皆さんもこのプランの趣旨をご理解いただき、交流活動や空家、土地の提供にご協力ください!

● 新たな課題「耕作放棄地の解消」

さらに元気な集落・地域とするために

次年度に向けて取り組む課題を「耕作放棄地の解消」としました。耕作放棄地が増えると景観が悪くなり、寂れた雰囲気になる。若い世代は出て行ってしまい、残された親たちも高齢化で農作業も大変になり、耕作ができなくなる。そうすると、獣害もいま以上に増える。人口が少なくなり、集落の維持も難しくなる。こういった悪循環を断ち切り、背景にある過疎化・高齢化、若者転出などの問題も解消し、元気な集落・地域とするために、耕作放棄地の解消に取り組みます。

地域会議が現在までに検討した解決案は、コーディネート的な役割を担う相談所の設置。ここでは農

地を貸したい人と借りたい人のつなぎ役になったり、相談役を担うものです。あすけ住暮楽夢プランの定住対策連絡会との連携も考えられます。

また、農地として残すために、「耕作を委託する」「市民農園や体験農園として都市の人と交流する」などのアイデアも紹介しました。



参加者との意見交換

耕作放棄地の解消のために会場からは様々なアイデアが

会場の意見

- 「今は息子夫婦などが収穫時など手伝いに来てくれているが、これからどうなるかは確かに心配」
- 「みんなでレンタルできるような農機具があると、費用を抑えられるので無駄になっている田畑が減る」
- 「行政に頼ってばかりではダメだと分かっているけど、難しい」
- 「農地を借りてやってみたいが、指導してくれる人がほしい」
- 「私は足助に移り住んで10年になる。農地を持っていて今は自分で耕しています。今日、ここに参加して自分たちにも何か出来ると感じた。放棄地は高齢化や過疎化と密接な関係があるが、まずは自分から何か始めたいと思う」

引き続き、会場に集まっていた皆さんと地域をよくするための活発な意見交換が行われました。耕作放棄地解消のため、市民農園を開設しようとしている蛭子さん(竜岡)からは、「農業は楽しい。荒れているところをきれいにすることの感動・喜びがある。先輩たちが一生懸命植えた梅や柿も採らないでほかってあるのはさみしい。自分たちがきちんと受け継いで子どもたちに伝えていかななくては、やればかならずできる。難しくなく、やれることをやりましょう」といった意見をいただき、会場からも大きな拍手が。足助地区選出の鈴木市議からも「今回の耕作放棄地や定住、通行支障木は過疎・高齢化の問題から発生している。地域会議の活動に期待している」と激励をいただきました。最後に豊重哲郎さんからは「どんな状況でもできることは必ずあるので、行政に頼らず地方から町を元気にしていきましょう」と足助地区住民へエールがおくられました。



参加していただいたみなさん、ありがとうございました。

参加者のみなさんにお答えいただいたアンケートから、主なご意見を紹介します。(アンケート回答数108)



地域会議の新たな取り組み課題「耕作放棄地の解消」のために、あなたが思いつくアイデアはありますか？

- みんなが協力しないとダメ!やる気を出させること
- 足助米のブランド化
- 都会の農に関わりたい人達に本気で耕作指導をする
- 各自治区よりどんな小さな課題でもよいのでキーワードを決めて進めていくことが大事
- アドバイザーが必要
- 若者が住もうと思える地域にすることがまず1歩。この地域で何を作ればよいか、名物となるようなものを作るなどして耕作するものを増やすことを考える
- 村の農業グループ作り
- 蛭子さんたちのような方々の発掘、バックアップ。農地提供者が不安なく提供できるサポート体制
- 今、NPOで各家庭で自家栽培を訴えています、足助の土地にくるには遠すぎる。場所を確保しても、結局家の近くで耕作を始める。何とか定住に結び付けないと発展しないみたい。
- 一人ひとりが感じている問題を集落の問題として共有しよう。集落で考え、集落で行動しよう。機械ビンボウはだめ
- 放棄地を管理する組織を作る。ボランティアとして蛭子さんのような方を支援する体制を作ることも必要
- 農家訪問して、現状を伝えてゆく活動をする
- 貸し農園のジョイント役
- 地域で意欲のある人が作業チームをつくり、このチームを行政が応援する体制を整えてほしい
- 特産品作りに産業活動で活性化が必要。みんなで知恵をだして地域づくりをしなければならない。

いただいたご意見については、地域会議で検討を続けていきます。

また、みなさんにご意見をいただく機会があると思いますので、その際には、ご協力をお願いします。